

令和5年度第3回合同教育研究会議議事概要

1 開催日時

令和5年6月14日 13時00分～14時47分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長兼副学長事務取扱、亀田副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長兼高等教育推進センター長職務代理兼教学IRセンター長職務代理、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、高田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、伊藤国際文化学科長、松田宮古短期大学部長、大志田経営情報学科長、長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長※Web参加）、宮本委員（学外委員：岩手大学人文社会科学部教授）

[事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、藤村研究・地域連携室長、佐藤企画室長、長谷川宮古事務局長、八木主幹、伊藤主任主査

4 会議の概要

議事録確認

前回会議5月10日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

(1) 令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

橋本大学評価委員会副委員長から、資料に基づき説明があった。
審議の結果、原案のとおり了承された。

(2) 第三期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書（案）について

橋本大学評価委員会副委員長から、資料に基づき説明があった。

委員から、岩手県地方独立行政法人評価委員会による審議の結果、自己評価と異なる評価を受けることもあるのかとの質問があり、橋本大学評価委員会副委員長から、異なる評価を受けることもあるとの回答があった。

委員から、第三期中期計画や第四期中期計画において、女性研究者の比率に関する指標は設定しているかとの質問があり、新沼事務局次長兼総務室長から、第三期中期計画・第四期中期計画ともに、女性研究者の比率に関する指標は設定していないこと、また、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画においても設定していないとの回答があった。これに関し、宮野副学長兼事務局長から、今年度4月にダイバーシティ推進室を設置したことから、女性活躍推進も含めたダイバーシティ全般についての方針を今年度中にまとめる予定であるとの補足説明があった。

委員から、本学は学部構成の関係上、女性研究者がある程度在籍しているとの発言があった。これに対し、委員から、福祉とその関連分野は男性研究者が多く、教員公募への応募数も男性の割合がかなり高いため、現行の女性教員比率は学部において努力した結果でもあることから、「学部構成の関係上、女性研究者が多い」と一概に捉えないほうがよいとの発言があった。

委員から、国が女性比率 30%という数値を掲げているが、この 30%という比率は組織において少数派ではなくなる必要最小限の比率であり、これを達成することで、組織に質的な変化が起き、女性活躍推進の効果を実感できるだけでなく、新たなイノベーションをも創出する重要な比率であること、女性比率が低い場合には女性限定公募などの積極的な是正措置をとる必要があり、他大学では、第四期中期目標期間の部局ごとの人事計画の中に女性限定のポストを盛り込み、全学の人事会議において補充人事や昇任人事を扱う際に、なぜ女性限定としていないのか、応募者のうち女性は何人であったか、女性が採用されなかった理由等について確認する等の取組を行っているとの情報提供があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

協議事項

(1) 公立大学法人岩手県立大学学長補佐室設置要綱の一部改正について

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

(2) データサイエンス・リカレント教育プログラムの実施について

亀田副学長兼研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。選択科目のうち「⑤数理・データサイエンス・AI基礎コース」は、既に「数理・データサイエンス・AI塾」として開講しているものを充てるものであること、講義の開始は資料に記載のスケジュールから1か月程度遅れる見込みであるとの補足説明があった。また、学長から、「④EBPM入門コース」では、総合政策学部の教員に協力を依頼することとしているとの補足説明があった。

委員から、実施体制として、講師以外のマネジメント体制について質問があり、亀田副学長兼研究・地域連携本部長から、研究・地域連携本部でチームを作って対応するとの回答があった。

委員から、学びなおしや個人のスキル向上を目指す従来型の社会人教育である「リカレント教育」と、組織に必要となるスキルを定義して研修として従業員に学ばせる「リスキリング」のどちらの形態が受講者にとって参加しやすいのか、また、効果が期待できるのはどちらの形態かについても検討してほしいとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

(3) 企業学群キックオフ講演会の開催について

亀田副学長兼研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、産学官の連携は、それらを繋ぐ機関がなければうまく進められないことから、繋ぐ機関である「連」を加えた「産学官連」連携で進めたいと考えているとの発言があった。

委員から、非常に有意義な取組であることから、本学の特長を生かしてリーダーシップを発揮して進めてほしいとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

(4) いわて高等教育地域連携プラットフォーム（仮称）リカレント教育推進ワーキンググループへの参加意向について

猪股教育支援本部長（PF推進会議委員）から、資料に基づき説明があった。

学長から、内容を具体化するところから始めてほしいとの発言があった。

委員から、既に設置されている人材育成ワーキンググループを再構築するのではなく、新たにワーキンググループを設置するのかとの質問があり、関屋教育支援室長から、人材育成ワーキンググループとは別に新たにワーキンググループを設置し、全体で4つのワーキンググループとなるものであるとの回答があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

報告事項（口頭報告）

(1) 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請について

猪股教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(2) 国際交流協定の更新について（アッパーオーストリア応用科学大学情報通信メディア学研究科）

猪股教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(3) 令和5年度科研費採択率向上支援チームの体制等について

亀田副学長兼研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、当該支援チームによる支援を開始してから採択率が向上したが、現在は横ばいとなっていることから、専門分野が近いメンバーが指導するような支援体制を検討することとしているとの発言があった。

(4) 令和4年度各学部の自己点検・評価に係る外部有識者の委嘱及び意見交換等について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、次のとおり資料修正の発言があった。

資料 52 ページ

(2) 外部有識者との意見交換の実施状況

ソフトウェア情報学部

誤：R 4. 2. 21

正：R 5. 3. 20

(5) 令和4年度卒業年次生アンケートの結果について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、「2(3)教育の仕組み、施設等の満足度」について、「利用者のうち肯定的意見の割合」と「満足、どちらかといえば満足（肯定的回答）」の数値が異なる理由について質問があり、佐藤企画室長から、この質問の回答には「利用したことがない」という選択肢もあり、「利用者のうち肯定的意見の割合」は、「利用したことがない」と回答した者を除いた中での肯定的意見の割合であること、「満足、どちらかといえば満足（肯定的回答）」の割合は、全回答者の中での割合であるこ

とから、数値が異なるものであるとの回答があった。

(6) 本学タグライン&ロゴの決定について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

(7) 令和5年度 学内情報システム整備事業について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

報告事項（資料報告）

- (1) 岩手県立大学宮古短期大学部協力会事業「まちのオリエンテーション」実施結果
- (2) 令和5年度岩手県立大学副専攻「地域創造教育プログラム」第5期生修了証授与式開催結果について
- (3) 令和5年度岩手県立大学副専攻「国際教養教育プログラム」第1期生修了証授与式開催結果について
- (4) 令和5年度第1回学務調整会議の開催概要について
- (5) 令和5年度「数学学習相談室」の開設について
- (6) 令和5年度前期「English Time」の開催について
- (7) 令和5年度ライブラリー・アテンダントの決定について
- (8) 令和6年度編入学入試（ソフトウェア情報学部）出願状況
- (9) 令和5年度キャンパス・アテンダントの決定について
- (10) 「物価高に対する経済対策支援事業」の申請状況について
- (11) 岩手県立大学本庄照子奨学金の採用者決定について
- (12) 令和5年度七夕祭の開催について
- (13) 令和5年度北いわて地域活性化推進研究の採択課題の決定について
- (14) 令和5年度地域協働研究フォローアップ事業の実施について
- (15) 令和4年度研究倫理審査委員会の審査結果概要について（報告）
- (16) 令和5年度数理・データサイエンス・AI 塾 開催に関して（報告）
- (17) 令和5年度 Ruby プログラミング教室の開催について（報告）
- (18) 令和5年度公開講座・滝沢キャンパス講座の開催について（報告）
- (19) 令和5年度安否確認システム報告訓練の実施について（滝沢キャンパス）

(10)について

三上学生支援本部長から、当該支援事業に対し、5月2日までに89.7%の学生から申請があったが、6月30日まで申請受付期間を延長しているため、未申請の学生に周知をお願いしたいとの発言があった。また、次のとおり資料修正の説明があった。

資料 89 ページ

<参考> 予算に対する事業費 本学負担合計

誤：9,907 円

正：9,907 千円

その他

なし